

## 役割

- 「策定委員会」は、「審議会」で決定された方向性に基づき、各分野・課題についての議論を深めるもの。
- 前回の「奄美市総合計画」を例にすると、「審議会」は基本構想策定、「策定委員会」は基本計画策定を担っている。
- 今回の「最上位計画策定」については、全体構成の見直しを図るため、策定委員会の位置づけについても再検討が必要。

## 策定委員会について2つのあり方を検討。

### 類型1 分野特定型

#### 【前回総合計画時参考】

#### 将来像「自然・ひと・文化がともにつくる きよらの郷」

①健康で長寿を謳歌（福祉・保健・医療分野）

②産業連携（産業：農林水産・商工業・観光等）

③快適な暮らし（生活環境・自然環境・インフラ）

④教育・文化（教育）

⑤地域づくり（行財政）

- 【+】・分野特定が明確なので、議論の集約がしやすい
- ・類似する分野間での議論のため、現状共通する課題が共有しやすく、即時的な議論への発展がしやすい
- 【△】・分野特定ゆえに、市全体として取り組むべき課題の特定が難しい。
- ・現状認識が共有できるため、固定的な議論（すべき論）に陥る可能性も。

### 類型2 分野横断型

#### 【課題設定により新提案】

#### 奄美市の中核問題：人口減少の中の「しあわせ」とは

①いかに少子化に向き合うか

②“よい”高齢化のあり方とは

③住み続けられるためには

④人を呼び込むまちとなるためには

⑤シマへの愛着を高めるためには

- 【+】・ひとつのテーマに対して、分野横断的にメンバーを設定することで、議論を通した相互理解が深まる
- ・ひとつのテーマに対して、様々な視点での対策の検討を深めることが出来る
- 【△】・このタイプの策定委員会では、具体的な取り組みまで示しえない。
- ・最初の問題設定を誤ると、議論が迷走する可能性も。